

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。いよいよ秋本番ですね。さて、般若心経の意味を学ぶ今年のかわら版。生き方や社会のあり方を考える際の道標(みちしるべ)です。

今月は「無苦集滅道(むくーしゅうめつどう)無智亦無得(むーちやくむーとく)以無所得故(いむーしよーとくこー)」の十五文字。

「無苦」は「苦しみを無くす」。「集」は「苦しみの原因」。昨年二月号で「苦諦・集諦・滅諦・道諦」についてご説明しました。「集諦(じつたい)」は「苦の原因を明らかにすること」でした。つまり「集」は「原因」を意味します。「滅道」は苦しみを「滅」して、正しい「道」を歩むこと。正しい「道」は「八正道」。これは昨年四月号で取り上げました。「無智亦無得」は「知恵も無ければ、得るものも

無い」というような否定的な印象を受けるかもしれませんが、全く逆。

仏教では「無学」は「学ぶものがない」ほどの覚りの境地を指します。

「得」は「執着」。正しい道を歩み、苦しみの原因を滅すれば、執着もなく、無学の境地に至る。最初の十文字はそのように受け取ることができます。

ここまで理解できると「以無所得故」も何となく想像できます。「所得」も「執着」を意味します。

先月号でお示したように、人間は「無明」から始まる「十二縁起」の産物。始まりも終わりもない存在です。

にもかかわらず、自分の「五蘊(四月号)や「六根(七月号)、肉体や能力に「執着」し、「欲」に囚われます。それが「所得」です。

その「所得」の心が「無」が「故」に「以(もつ)

て「無苦集滅道無智亦無得」なのです。

でもどうやってそんな心境になれるのでしょうか。それが修行です。八正道を実践する「菩薩行」。説法を聞く「声聞行(しようもんぎよう)」。自然の変化の中で因縁を知る「縁覚行(えんがくぎよう)」。

多くの人に親しまれるご心経。わずか三百文字弱の短いお経の中に、お釈迦様の教え、人間関係や社会の問題を和らげる心のあり方、生き方についての教えが詰まっています。

みんなが「以無所得故」となれば、国同士、人同士の争いや問題も少なくなるでしょうね。

※

合掌。

※

合掌。

合掌。

合掌。

合掌。

合掌。



かわら版執筆者 大塚耕平

日泰寺の地元、田代小学校、城山中学校を卒業。旭丘高校、早稲田大学をへて、日本銀行に18年間勤務。

2001年から参議院議員。元内閣府副大臣・厚生労働副大臣。地元の歴史・文化遺産の継承と振興のために「弘法さんかわら版」を執筆しています。今年で、足かけ14年目。

日銀時代に母校の大学院博士課程を修了(学術博士)。現在は、早稲田大学と中央大学大学院の客員教授も務めています。



「仏教通史」

弘法さんかわら版の書籍第二弾

弘法さんかわら版講座「仏教通史」

大塚耕平 著 (大法輪閣)

お釈迦様の生涯から日本仏教まで。

大法輪閣

(仏教書の老舗出版社)

営業部：電話 03-5466-1401

好評発売中!

